

## 新型コロナウイルス感染拡大に対する府連の対応について

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。

中央本部も肺炎関連の感染防止の観点から、3月3日・4日に予定されていた第77回全国大会の延期を決定しました。

遠路はるばる大会に参加する代議員各位の方には、大きなリスクを伴うという判断からの延期です。

新型コロナウイルスが重篤な病を引き起こすものかどうかなど、まだまだ未解明な部分があること。また、高齢者や疾病を抱える人たちへの感染拡大が重篤な病を引き起こす事例などが紹介されだしていること。感染を防止する決定的な対策が現実的に未解明となっていること。などにより、想定を超えた不安が全国各地で引き起こされている現状だと思えます。

リスク管理は、最悪の事態を想定して行うべきものであることは言うまでもありません。リスクを排除できないのであれば、リスクを回避する最善の選択をすべきことが主催者側の判断であるべきです。

もちろん、企画していた会議や集会在、何事もなく終わる可能性も大きいと予測することも可能ですが、問題は万が一の事態が起こった時という判断になります。

大阪は感染者数が少なく、そこまで過敏に反応することはないのではないかと一部の意見がありますが、いつ、誰が、どこで、どんな事態で感染するというリスクは誰もがつきまとっているものです。

人の命に関わる問題ですから、それこそ人権問題であり、それを軽視したり、甘く見ることは断じて許されるべきものではありません。

医療従事者や学者等も含めこの一、二週間が感染を拡大させるのか、沈静化の方向に向かうのかの分水嶺だとの判断が示されています。

そこで、府連としては、この一、二週間に予定されている大会起草委員会をはじめとする住宅関連の学習会やネム21による教育をテーマにした学習会などは、延期または中止という決定を下しました。

長い時間をかけて、準備してきた側としては、あり得ない選択肢だとは思いますが、命に関わるリスクが少ないとはいえ否定できない現状であることを鑑み苦渋の判断と致しました。

関係者のみなさんへのご理解とご協力を呼びかけるものです。

2020年 2月 27日

部落解放同盟大阪府連合会

書記長 村井 康利